

ショウガ疫病菌の発生生態と防除法

山崎睦子・矢野和孝・森田泰彰・竹内繁治*

Ecology and Control of Phytophthora Rot Caused by
Phytophthora citrophthora on Ginger (*Zingiber officinale*)

Mutsuko YAMAZAKI, Kazutaka YANO, Yasuaki MORITA and Sigeharu TAKEUCHI*

要 約

ショウガ疫病菌は、10～30℃で生育し、発病適温は20℃を中心に15～25℃であった。本病原菌はショウガの他、ミョウガ、ナス、キャベツおよびサヤインゲンに感染したが、キュウリ、メロン、トマト、ピーマン、ハクサイ、ニラおよびネギには感染しなかった。露地栽培での本病の発生は初夏と秋期の2回みられ、気温および地温（深さ15cm）が21～22℃で推移し、かつ降雨が連続した場合に発生する傾向がみられた。本病は、15℃貯蔵中の根茎においても病徴の進展がみられた。また、貯蔵中の健全根茎に罹病根茎や土壌から伝染することが明らかとなった。本病原菌の汚染土の温湯処理による死滅温度は、40℃180分間以上、45℃10分間以上、50℃3分間以上であった。

本病の防除法として、ショウガ植付け前の土壌還元消毒、湛水処理、およびメチルイソチオシアネート・D-D油剤、クロルピクリンくん蒸剤やダゾメット粉粒剤による土壌消毒ならびに生育中のシアゾファミド水和剤500倍希釈液の土壌灌注が有効であった。

キーワード：ショウガ，疫病，*Phytophthora citrophthora*，貯蔵病害，発病適温，宿主範囲，死滅温度，防除法